

薩摩川内市長 岩 切 秀 雄 殿

男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想

経営計画報告書

薩摩川内市女性チャレンジ委員会

平成31年3月

目 次

1	薩摩川内市女性チャレンジ委員会地域づくり事業構想報告書提出を行うにあたって 薩摩川内市女性チャレンジ委員会第7期会長 鳥越 裕美子	1
2	講評 女性チャレンジ委員会アドバイザー たもつ ゆかり氏	2
3	女性チャレンジ委員会学習プログラム	6
4	地域づくり事業構想の概要	8
5	地域づくり事業構想報告書・課題抽出のための現状把握の図解 (1) 「なんでんかんでん我がたっで！育てようコミュニティ広場」 ～地域コミュニティの今後のあり方についてみんなで語り合える地域を目指して～ ＜やまとなでしこグループ＞	12
	(2) こしきフレンドシップパーティ（＝自学研修塾）の設立 We Do！ ＜島美人グループ＞	14
	(3) 「～“違い”が価値になる、“同じ”が力になる～ 薩摩川内・地域大好き支え合い自慢グランプリ大会」 ＜虹グループ＞	16
	(4) 地域で支え合うための世代間交流促進事業 ＜ハーモニーグループ＞	18
6	活動経過報告	20
7	薩摩川内市女性チャレンジ委員会名簿（第7期）	21

第7期薩摩川内市女性チャレンジ委員会経営計画報告書の提出を行うにあたって

平成17年4月1日に設置され、時代の流れと共に変革を遂げてきた本委員会。
平成27年4月に設置要綱が一部改正され、名称が「女性チャレンジ委員会」へ、定数も「30人程度」となり、今回は2期目でした。

第6期同様、私たちはサービスを受ける側であり、サービスを提供する側でもあるという自治の担い手としての視点を明確にし、多様な生き方をしている市民一人ひとりの人権を尊重するために、行政サービスに頼るだけではなく、私たち自身で何ができるかを考えることを目的として「We Do!」を合言葉に話し合いを進めました。

25人が4班に分かれ、現状把握⇒重点課題の抽出⇒解決策の設定と、各班が自主学習会を交えながら男女共同参画の視点を大切にしたい地域づくり事業構想を立て、その実現に向けた経営計画を2年という時間を費やし策定に取り組みました。自分たちの偏見や固定観念を捨て、しっかりと根拠・事実を調べる作業は想像以上に大変でしたが、その過程で「互いを認め合うことの大切さ」や「人へのまなざしの向け方」など多くの気づきと学びを得ることができました。

今般、事業構想を取りまとめましたので、活動の報告として男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想4事業を提出いたします。これらの内、甕島在住の委員で構成される島美人グループは、すでにその実現に向けて、市民活動支援補助金の申請をするなどの準備を進めております。他のグループもこの経営計画の実現に向けて活動していこうとしていたり、直接この経営計画の実現でなくても、それぞれ自分の住む地域コミュニティにおいて、チャレンジ委員会で学んだことを生かそうと動いております。今後活動していく中で、私達だけではどうしても解決できない問題も出てくると思います。そのときは、市にも相談させて頂き、協同することで、解決していきたいので、ご支援いただけますようお願いいたします。

このような機会を設けていただいたことを感謝しつつ、今後も薩摩川内市の更なる発展のために、当委員会が役に立てるよう願っております。

平成31年3月22日

薩摩川内市女性チャレンジ委員会
会 長 鳥越裕美子

第7期チャレンジ委員会「講評」

チャレンジ委員会アドバイザー たもつゆかり

第7期チャレンジ委員会のみなさま、2年間本当にお疲れ様でした。

この2年間、委員のみなさんが、薩摩川内市のこと、自分の地域の事を真摯に考え、思いを傾けて来られたことこそが、チャレンジ委員会の目的に適う活動の基盤であり、2年間の活動を通して、みなさんの中に培われてきた住民自治の担い手としての意識、「We Do!」の源泉であったことに、改めて敬意を表します。

チャレンジ委員会は、薩摩川内市における男女共同参画の推進に向けて、その中核の課題である「政策・方針決定過程への女性の参画」を進めるためのポジティブ・アクションとして、女性のエンパワーメントを図ることを目的としており、その社会的意義は、「女性活躍推進」への社会的気運が高まる中で、さらに重要になっています。

地域課題が多様化・複雑化し、男女共同参画社会基本法が施行されて19年を経た今日においても、女性を当事者とし、女性の側から「問い」を立てなければならない課題は山積しており、薩摩川内市においても、政策・方針決定過程に、男女双方による多様な視点が反映されるよう、さらに女性の参画を進める必要があります。

第5期以降のチャレンジ委員会は、それまで、主として、サービスを受ける側から行政施策への提案を行ってきたことと異なり、すでに地域と深く関わり、様々な地域活動における豊富な経験を有し、サービスを受ける側であると同時にサービスを提供する側にも立っているみなさんが、その実感を手掛かりに新たなサービスを創り出し、最終的に立案される「男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想」と、その実現に向けた「地域づくり事業経営計画」を策定し、その過程を通して、あらゆる地域課題・行政課題の解決に不可欠である「個人の尊重」「男女平等」「個人の能力発揮」を基本とする「男女共同参画の視点」についての実感的理解を深めることを中心に、女性のエンパワーメントを図る上で必要な様々な学習を行っています。

また、チャレンジ委員会の活動は、それぞれ多様な立場の多彩な委員で構成されるグループ毎の「共同学習」を基本としており、提案をまとめるまでの過程において、委員それぞれの多様な意見を尊重しつつ合意形成を図る「話し合いの仕方の練習」を尽くす場でもあります。実は、この練習（チャレンジ）が最も難しく、委員の多くが、地域コミュニティ等の話し合いの場において、アサーティブに自分の意見を述べる経験が少ないということもあり、当初は論拠が曖昧なままの意見が頻出し話が拡散する、異なる意見を受容できないことへの葛藤をかかえるなどの状況がみられます。しかし、また、活動の成果が最も顕著に表れるのも、この「話し合い」であり、その様子は、回を重ねるにつれ磨かれる「対話力」に着実に変わっていき、活動終了後には、「シンドかったけれど、とても楽しく充実していた」という声が聞かれます。

期を重ねるごとに、チャレンジ委員会の「共同学習の場」としての「場」の力は、これまでの委員のみなさんの熱意の集積により増幅され、より良い薩摩川内市をと願う女性の志が、ゆるやかにネットワークされる拠点となる兆しもみられます。また、それぞれのグループの調査研究テーマにつ

いて話し合いを重ねる中で、共感と信頼に満ちた豊かな友情が育まれていることを、何より嬉しく思います。

提案をまとめる作業の過程では、各グループの調査研究テーマに関する現状把握から課題認知の過程において、「問い」の確かさを磨くことに多くの時間を費やしてきました。この作業は、論理的思考を磨くスキルを使い進めますが、地域への思いがあふれ、活動の経験が豊富な委員のみなさんであるがゆえの思い込みを解くことに難航する、なかなか手強い！？難関で、委員のみなさんにとっても、私にとってもかなりシンドく、每期、みなさんとの根競べ状態の様相を呈することとなります。

チャレンジ委員会での学習は、あらゆる地域課題・行政課題の解決には、「男女共同参画の視点」が不可欠であるという男女共同参画政策の方向を踏まえ、この「確かな問いを磨く」力量形成に注力しています。

今日、女性の加速的な参画が要請される政策決定は、個人のありかたに影響を及ぼす社会のありかたをつくり、その過程の起点となる「政策課題の認知」が、「誰の、どのような価値意識でなされるのか？」によって、掬い出すべき、見ようとしなければ見えない困難や課題が看過されることのないよう、「一人ひとりの人権の尊重」を基盤とする「男女共同参画の視点」による注視が必要です。

確かな「解」は、確かな「問い」から導かれ、その過程に「男女共同参画の視点」が必要であることは、性別による固定的な役割分担等ジェンダーにより、子育ても仕事もと希望する女性の自己実現の困難が、その実感をより有する当事者である女性の政策決定への参画が進まなかったために、政策課題としての的確に認知されず、長きにわたり社会的な「問い」が立つことなく、女性をめぐる社会の変化への対応が遅れ、社会の活力に大きな影響を及ぼしている今日の少子化の状況が象徴的に示しています。

男女共同参画は、社会の基本価値である「人権」に「性別」に焦点を当ててアプローチすることにより、人権尊重の深化（「性別にかかわらず、一人ひとりの人権の尊重」を図り、「（男女の）事実上の平等」（ジェンダー平等）をめざしています。また、その過程が、持続可能な多様性に富んだ社会の活力の創造に寄与するという理念で取り組んでおり、まさに、薩摩川内市の「ひとみらい」に重要な視点と言えるでしょう。この理念は、地球・社会の持続可能性を主題とする国際協調によるもので、各国政府・自治体における開発政策が、人権・環境に負荷を与えることなく、人口・貧困問題等世界共通の政策課題の解決には、ジェンダー平等（男女共同参画）の視点を不可欠とする社会開発の方向を踏まえるものです。

みなさんの「地域づくり事業構想」は、男女共同参画の基盤を成す「一人ひとりの人権の尊重」に根差し、それぞれの方向と目的は異なっていますが、最終的には、一人ひとりの人権の擁護と生活の質の向上（住民福祉の増進）に向かっています。

甕島から参加する委員で構成された「島美人」グループは、架橋の完成による生活環境の変化を見据え、島の振興に係る諸課題に経済的側面と生活的・福祉的側面を統合する視点からアプローチし、「住民主体の内発的振興策が、住民一人ひとりの幸せにつながる」という社会開発の方向を踏まえる事業構想の立案に至り、「虹」「ハーモニー」「やまとなでしこ」グループは、現状把握の

過程で共有された、基本的に縦割りで提供される行政サービスでは届きにくい「一人ひとりが複合的にかかえる生活上の困難」について、『我々』は、どのように寄り添い支えることができるのか？という想いを尽くし、「自治の振興」という方向から、『我々の我々による』地域づくりの場であり、その包括性・多機能性に「丸ごと支え合い」の場として期待される地区コミュニティ協議会のありかたを探り、事業構想において、それぞれの方策を示しています。

また、各グループの事業構想は、地方分権の動向に伴う地域自治の確立に向けた、今日の地域づくりの方向「行政主導から地域協働の地域づくりへ」を捉え、新しい公共を担う地域づくりの主体について、「要請される活動性と“縦割りのなもの・制度的なもの”を内包する組織性の乖離」という研究論的課題について、その具体的に現場のリアリティから迫る確かな「問い」を立てています。

この「問い」は、現状把握の段階において、一人ひとりの住民の暮らしやコミュニティの実情を探り収集された細かで身近な情報の集積から立てられた必然であり、そこには、共助の場である自治会や地区コミュニティ協議会等において、自らもその構成員であり諸活動に関わる実感のジレンマがみられます

○「虹」グループは、各地区コミュニティ協議会による広域的な取組として行う「地域大好き支えあいグランプリ大会」というイベントの実施に至る過程での様々な場や機会の総体を事業構想とし、このイベントを、構想の方向がめざす「住民自治の振興」に向かう手段となる事業として位置づけしており、この着想は、コミュニティ形成の手段である行事に追われる地域の状況が、「支えあい」の場としての「活動性」の力量を削いでいることへの問題意識を発露としています。また、当初テーマとした「地域間格差」に、広域的取組の視点と、それによる地域間交流に「格差は、個性」とする希望を見出しています。

○「ハーモニー」グループは、地域の包括性自体を地域づくりの資源として捉え、子どもから高齢者までの多世代を包括する地区コミュニティ協議会が内包する「縦割りのなもの」に「問い」を立て、従来の高齢者を対象とする「いきいきサロン」と「子育てサロン」の統合等による「世代間交流促進」が、共助の場としての力量を高める可能性を見出しています。多様な住民間の「関わり合い」から、日常の営みのこととして支え合う自然体の近隣力を引き出そうする、この事業構想は、核家族化、共働き世帯の増加等によるコミュニティの変化に、改めて、意識的に「関わり合い」の機会を創出する必要性を問いかけています。

○「やまとなでしこ」グループは、地域コミュニティの多様性と包括性、それ自体が、共助による地域生活課題解決の「資源」であることの着眼から「住民みんなで『対話を重ねる』コミュニティ広場」事業を立案し、コミュニティ活動の基本である「住民参加」の意義を、自分たちなりの実感に即した「広場」ということばに託し、改めて、その価値への再評価を促しています。また、この事業構想を支えるWe Do!の志は、「我がたっで！」でなければ掬い出せない「見ようとしなければ見えない」困難の潜在化に行き届き、地域の誰一人置き去りにしない、「住民みんなでみんなを支える」しくみの基盤が、一人ひとりが尊重される対話によるコミュニティの「話し合い」力であり、その場の地域生活課題解決に向けた多機能性への視点を拓いています。

○「島美人」グループは、合併以来の「甌は一つ」の理念を、島の振興策に機動的に組み込む方

策を模索し、各島における多様な地域づくりの組織・団体の活力、多様な地域資源を包括し「総合的な実現力」を発揮できるしくみを構築する手段として「フレンドシップパーティ『自学研修塾』の設立」を立案しています。「『我々』の『我々』による」共同学習の場」は、地域振興に重要な内発性を高める可能性を兆し、甕島列島の新しい価値を拓いていくでしょう。この場を拠点とするネットワーキング、その過程に集積されていく地場力が期待されます。

すべてのグループの提案における具体の事業は、今日の地域づくり・地域コミュニティづくりの方向において、そこに関わる組織・団体が「共助」の場として要請される、「公助」において抽象される地域課題—行政需要の束では括り切れない「住民一人ひとりがかかえる生活上の困難や課題」を支え合う機能を発揮する(活動性)の基盤として、住民ニーズを汲み取る「課題と希望を分かち合う」場の必要性を具現しようとするものであり、まさに、課題と希望を分かち合ってきた2年間にわたる調査研究活動の実感に照応する説得力があります。

チャレンジ委員会の志である「We Do！」は、今後さらに自治体経営の課題として重要になる「自治の振興」に貢献するものであり、すでに、これまでの委員を含め多くの方々が、それぞれのコミュニティで、日常の営みの中で、自治の担い手としての意識をもって様々な実践、実践へのチャレンジを行っています。2年間の活動を通して、自治意識と男女共同参画意識を培ってこられたみなさんが、コミュニティにおける様々な活動に参画する過程は、「地域で身近に男女共同参画を進める」過程でもあり、薩摩川内市のみならず鹿児島県全体の男女共同参画推進上の課題である地域での取組の強化に、その実際的な方策を示すものとして注目されます。

いま、改めて、みなさんの提案を読み返しながら、お一人お一人の弾ける笑顔、苦悩する面差しを思い起しています。この2年間、シンDOI学習に耐えてくださったことに敬意を込めて感謝申し上げます。私にとっても、少々シンドかったけれど楽しく充実した時間となり、みなさんが示して下さる現場のリアリティに深く学ばせて頂く有意義な機会となりました。何より、素敵なみなさんとの出会いが嬉しく、「あなたに会えてありがとう！」の心境です。

一人ひとりにより近く在るからこそ、より深く寄り添うことができる・・・We Do！みなさんのさらなるご活躍を願っております。

最後になりましたが、チャレンジ委員会の活動を細やかに支えて下さったひとみらい政策課のみなさまに、心より御礼申し上げます。

チャレンジ委員会の学習プログラム

男女共同参画の視点（一人ひとりの人権の尊重を基盤とし、サービスの担い手であると同時にサービスを創り出し提供する側でもあるという視座から考察をする。＝地域生活者の視点 We Do!）からの地域づくり事業構想策定までの、2年間の学習のプログラムをご紹介します。

1

第1次テーマの設定

現段階におけるグループでの問題意識を集約し、それらの問題意識の背景を話し合いテーマを決定します。（テーマは「問い」）

<チャレンジ委員会の話し合いのルール>

- ①批判厳禁 ②自由奔放
- ③量を出す ④結合改善



2

情報収集

地域の現状を把握するために、委員は情報収集を行います。（情報を付箋紙に書き出します。）地域の方から5人は聞き取りを行い、付箋紙20枚を目標にします。

3

意見情報から事実情報への修正

情報収集した情報の殆どが意見情報になっているため、事実情報へ変換する学習を行います。

（例）（意見情報）子育て世代の人は、自分の生活のことばかりで、地域の行事に参加しない。→

（事実情報）私の住んでいる地域では、子育て世代の人の多くが、地域の行事に参加していない。

これは、固定観念を捨て、事実として受け止めることで「なぜ？」という確かな問いを導き出します。

今までの固定観念を振り払いながらの作業になります。



4

カードのグループ化・現状把握

事実情報に修正したカードを「共通性がある」「関係性がある」のレベルでグループ分けをします。言葉そのものではなく言葉の背景にあるイメージでまとめます。まとめたカードに見出しをつけます。まとめられるかどうかわからないカードも積極的に検討していきます。

5

空間配置・図解の作成

グループ分けしたカードを相互関係を考えながら模造紙の上に配置し情報の分析を行います。関係線を引き図解を完成させます。



【相互関係】

- ・因果関係アリ
- ・密接な関係アリ
- ・関係アリ
- ・相互に影響しあう関係アリ
- ・反対または対立し合う関係アリ



6

重要課題の抽出

現状把握したことを、図解作成することで、テーマについての問題がいくつか抽出できます。その問題について「なぜ、そのような問題があるのか？」問題の本質をつかみ、それらの問題解決のためには「このようなことをしなければならない。」「こういう事をやろう」という課題を選び出していきます。

7

解決策の設定

テーマに対して「何をしなければならないのか。」を明確におさえていきます。「地域づくり事業構想」の決定です。

テーマの設定～事実情報～現状把握から導き出された重要課題の抽出、解決策の設定、さらにそれらの問題を解決していくための「地域づくり事業構想」までを、報告書として作成します。

はじめに

・どのような思いを持ってテーマの設定を行ったか。

現状把握

・情報収集を行い、グループ化し、図解によって導き出された問題

重点課題の抽出

・現状把握の基盤となった、問題意識を集約し導き出す。

地域づくり事業構想名

・問題解決のための事業構想

<報告書例>

テーマ：『藤原川内市での地域格差』

【おじグループ】

青山、木下、小辻、銭原、日高、松岸、丸目



1 はじめに

私たちのグループは、まず藤原川内市の現状を考えながら、各委員の住んでいる場所や環境が違っても感じる問題を出し合う事からスタートした。

住んでいる地域での行政サービスや住みやすさ、住みにくさに差があるのではないかと考え、当初テーマを「藤原川内市での地域格差」に決定した。

地域格差について現状把握を進めていくうちに、はじめは豊かで暮らしやすいと想像していた市街地・住宅地にも課題があり、また、人口流出、高齢化が進む過疎地域には、課題もあるが、市街地・住宅地とは異なる豊かさがあることがわかった。

課題は「地域格差」そのものではなく、地域生活者自らが、地域の現状を把握し、その情報や将来への思いを共有すること。困りごとへの具体的な対策案とその実行を実現する力を醸成していくことではないかと気づいた。そうした時、地区を代表する地区コミュニティ協議会の多くに、多様化・複雑化する地域課題が山積する常態の中で、問題意識を持つ地域生活者からの情報や意見を話かす場が準備されていないという新たな課題が見えた。

2 現状把握

①人口減少の地域では、今後さらに高齢化が進むと、現状での生活を続けるには、今なんとかしないといけない。

②地方への定住促進の制度があっても、現実住んでからの後のサービスが整っていない為、定住が少ない。

③人口の少ない過疎地に暮らす人たちは、自分たちで行政サービスが行き届いていない部分を補っている為、コミュニティ間の結びつきが強い。

④企業が出来る地域には人が集まり、住宅が出来る。また、公園・病院等が出来て便利になっているが、世代間の交流や人とのつながりが希薄になっている。

⑤私たちの地域では、長年住み慣れた場所で暮らしたいという思いの人がいるが、小学校の閉校、商店の閉店、交通の不便さ等から市街地方面へ転居の選択をする人が増えている。

3 重点課題の抽出

今ある課題や現状を真剣に語り合い、課題解決に自ら動き出す力を育て、自信と勇気とネットワークで、誰もが住み慣れた地域でお互い支えあい安心して健やかに暮らせることの地域の実現に向けて。

A. 地域生活者自らが、地域の現状を把握し、その情報や将来への思いを共有すること。困りごとへの具体的な対策案とその実行を実現する力を醸成していくこと

B. 地区を代表する地区コミュニティ協議会の多くが、多様化・複雑化する地域課題が山積する常態の中で、問題意識を持つ地域生活者達からの情報や意見を話かす場を持たない

C. 地区コミ役員だけでなく、だれでもがのびのびと意見を出し合える場、課題と同時に、地域にある豊かさや、地域に対する愛着にも着目することで、話し合い、課題解決するマインドや手法を学び、自ら解決することを継続できるように、話し合いの場づくり

「事業名」

『～“違い”が価値になる、“同じ”が力になる～
藤原川内・地域大好き支え合い自慢グジンブリ大会』

問題解決のための事業構想＝「地域づくり事業構想」が決定し、私たちが導き出した地域課題解決に向けて、どのような取組行っていけば良いかを経営計画として、図式化していきます。

1 事業の付加価値

事業によって生み出される状況等を考えます。

2 事業により利益が及ぶ人

事業を進めることにより関わりが生まれ、利益を得る人を考えます。

3 長期・中期・短期事業計画

長期・中期・短期に実施できる事業計画を考えます。

4 実現のための制約要因

事業を実現していくために、制約される要因を考えます。

5 獲得すべき経営資源

事業を進めていくために必要な人的資源、物的資源、財務的資源を考えます。

6 必要なネットワーク化

事業の実現のために協働して進めていく組織や個人等を考えます。

男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の経営計画を完成させ、チャレンジ委員会での発表会を行います。



市長へ「男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想」の報告をし、事業の実現に向けて、取組んでいくことになります。

「We Do!」私たちがやっていきましょう！（我がたっですっど!）をコンセプトに各地域に委員の方が学びを還元し、地域の方々を巻き込みながら、一人ひとりにより近くにいる住民として、一人ひとりに寄り添っていける人が誕生していきます。

第7期薩摩川内市女性チャレンジ委員会男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の概要

No.	1
班名	やまとなでしこ
メンバー	家村、犬井、内野、辛島、福壽、宮脇
地域づくり事業構想名	「なんでんかんでん我がたっで！育てようコミュニティ広場」 ～地域コミュニティの今後のあり方についてみんなで語り合える地域を目指して～
調査・研究テーマ	地域コミュニティの今後のあり方について
調査研究により共有されたテーマに対する問題意識	一部の役員に任せるのではなく、性別に関わらず、子どもから高齢者、障がい者などできるだけ多くの住民と対話を重ねる中で、悩みごとや困りごと、地域の課題を見据えることができ、「人ごと」ではなく「我がごと」と一人ひとりが認識できる場の定着を目指し、このような場を創出するための具体的な方策を体现する場づくり。
抽出された課題	◎地域コミュニティづくりの基盤となる住民の自治意識の醸成を図る場の創出 ◎地域コミュニティの組織や行事の再評価と新たな基盤づくり ◎多様な人々が地域コミュニティづくりに参画できる環境づくり
事業の経営計画 短期 (数ヶ月)	☆事業の中心となるメンバーを募る。 ☆事業の中心となるメンバーの学習会（思いの共有） ☆モデル地区の選定、依頼（地区コミ会長会などでのプレゼンテーション） ☆地域の現状、生活課題、コミュニティ協議会や自治会の組織・活動のあり方に関する住民への聞き取り又はアンケート調査の実施 ☆（モデル地区となる）地区コミュニティ協議会や自治会、住民への事業説明 ☆生涯学習での学び（認知症や障がいについて、男女共同参画）
事業の経営計画 中期 (1年～2年)	☆地域の現状や課題を住民が共有するための座談会開催 ☆座談会開催に向けたチラシづくり、防災無線などでの広報活動 ☆共有された課題解決に向けた住民参加による地域づくり事業計画作成 ☆中心となるメンバーの増強 ☆生涯学習での学びの継続
事業の経営計画 長期 (3年～5年)	☆地区コミュニティ協議会役員などを対象とした 本事業の報告会開催 ☆中心メンバーによる「コミュニティ広場」創出に向けた支援活動 ☆地区コミュニティ協議会における「コミュニティ広場」の定着
事業構想による付加価値	○潜在する悩みごとや困りごとの掘り起こしにつながる。 ○住民のコミュニティ意識（自治意識）の高まりが期待される。 ○住民への地区コミュニティ協議会、自治会活動の意義についての関心と理解の普及につながる。 ○地区コミュニティ協議会における組織、行事など活動の再評価への気運が高まることが期待される。

第7期薩摩川内市女性チャレンジ委員会男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の概要

No.	2
班名	島美人
メンバー	植村、江口、齋藤、塩釜、白潟、南
事業構想名	こしきフレンドシップパーティ (=自学研修塾)の設立 We Do!
調査・研究 テーマ	元気でいきいき暮らす島づくり
調査研究により 共有されたテーマ に対する問題 意識	甕列島の振興と住民の幸福のためには、列島を一体化した<甕はひとつ>の推進が不可欠である。<甕はひとつ>を、島民の一人ひとりの現実として浸透させ、列島の一体化に繋げて多方面へ波及させることが重要である。 列島各地域の島民自身が、食も労働もシェアする、従来の許容し分かち合うという気風の豊かさを新たな時代に生かそうとする時、<甕はひとつ>推進事業は、行政と住民の協働を有意性のある局面として、生み出すのではないか。
抽出された課題	◎多様なニーズを行政に求めるには限界があり、地域にはその役割が期待されているが、これまでの組織や活動では対応できない部分があり、それが事の進展を阻んでいる。甕4町の差異や多様性に着目し、住民自身によって新しい繋がりがた、島全域を捉える視点、それらを創出する仕組みづくりが必要である。 ◎豊富な自然や伝統的な生活の再評価と、島外への情報発信とともに、内部での情報の確かな共有を、住民自身が創り出す必要がある。
事業の経営計画 短期 (数ヶ月)	☆「まちづくり塾IN上甕島」での協働 ☆ チャレンジ委員会での研修 ☆ その他自主学习 ☆「甕はひとつ・甕島分室」の設置を、薩摩川内市に提案する準備。
事業の経営計画 中期 (1年～2年)	☆「まちづくり塾IN下甕島」での協働 ☆ 市民自主活動への支援 ・チャイルドフェス・上下島開催協力 ・ごったん祭り・上下島開催協力など ☆「甕はひとつ・甕島分室」の提案書提出。
事業の経営計画 長期 (3年～5年)	☆<こしきフレンドシップパーティ> NPO組織化などの検討を始める 目的 活動内容 構成メンバー
事業構想による 付加価値	○島民意識の一体化 ○「こしきはひとつ」の気運の醸成 ○列島地域の活性化 ○観光産業への波及 ○住民福祉への波及

第7期薩摩川内市女性チャレンジ委員会男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の概要

No.	3
班名	虹
メンバー	青山、木下、小辻、錢原、日高、松澤、丸目
事業構想名	「～“違い”が価値になる、”同じ”が力になる～ 薩摩川内・地域大好き支え合い自慢グランプリ大会」
調査・研究 テーマ	薩摩川内市での地域格差
調査研究により 共有されたテーマ に対する問題 意識	地域生活者自らが、地域の現状を把握し、その情報や将来への思いを共有すること。困りごとへの具体的な対策案とその実行を実現する力を醸成していくこと。地区を代表する地区コミュニティ協議会の多くが、多様化・複雑化する地域課題が山積する常態の中で、問題意識を持つ地域生活者達からの情報や意見を活かす場を持たない。地区コミ役員だけでなく、だれでもがのびのびと意見を出し合える場、課題と同時に、地域にある豊かさや、地域に対する愛着にも着目することで、話し合い、課題解決するマインドや手法を学び、自ら解決することを継続できるよう、話し合いの場づくり等が大切ではないかと考えた。
抽出された課題	◎地域生活者自らが、地域の現状を把握し、その情報や将来への思いを共有すること。困りごとへの具体的な対策案とその実行を実現する力を醸成していくこと。 ◎地区を代表する地区コミュニティ協議会の多くが、多様化する地域問題が山積する常態の中で、問題意識を持つ地域生活者達からの情報や意見を活かす場を持たない。 ◎地区コミ役員だけでなく、誰でもがのびのびと意見を出し合える場、課題と同時に、地域にある豊かさや、地域に対する愛着にも着目することで、話し合い、課題解決するマインドや手法を学び、自ら解決することを継続できるよう、話し合いの場づくり。
事業の経営計画 短期 (数ヶ月)	☆地区コミ、自治会へ対し ・事業説明 ・場所設定 ・勉強会(話し合いの仕方など…) ・住民への呼び掛け ・タイムスケジュール“自慢大会”までの目的をわかってもらって、参加してもらう 為の説明・案内
事業の経営計画 中期 (1年～2年)	☆自慢大会へ向けての話し合い ☆具体的な内容の発表への話し合い ・プロセス ・良い点、課題 ☆地区の発表会へ別校区が参加することで交流が生まれる
事業の経営計画 長期 (3年～5年)	☆自慢大会開催へ向けての話し合いの場の継続をする ☆良い所を確認する ☆課題について、自分達で解決していく事が出来る ☆地区同士の交流の場の維持 ☆外からのアイデアを自分達の地域作りに生かす
事業構想による 付加価値	○話し合いの場づくりについて勉強会でルールについても学ぶ事で、お互いが話しやすくなり、信頼関係を保つ場を構築することが出来る。 ○これまで地区コミ行事等に参加していなかった人も気軽に参加出来る場作り。 ○地域の役員だけが話し合いの場に参加している現状。 ○地域生活者が地域の現状を把握することが出来る ○問題意識を持つ地域生活者が情報や将来への思いを共有出来る。

第7期薩摩川内市女性チャレンジ委員会男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想の概要

No.	4
班名	ハーモニー
メンバー	有村、宇宿、大村、千賀、鳥越、武藤
事業構想名	地域で支え合うための世代間交流促進事業
調査・研究テーマ	地域で支え合うための世代交流のしくみづくり
調査研究により共有されたテーマに対する問題意識	社会構造の変化により世代間交流が少なくなったことで、住民間のコミュニケーションが不足し、住民同士の支え合いの中核になる地区コミュニティ協議会などの運営が難しくなっているのではないかと。社会構造が変化しても、地域で支え合うニーズはあり、地域で支え合う力が潜在しており、工夫次第で世代間交流を促進することができるのではないかと。
抽出された課題	◎社会構造の変化により世代間交流が少なくなったことで、住民間のコミュニケーションが不足し、住民同士の支え合いの中核になる地域コミュニティ協議会などの運営が難しくなっているのではないかと。 ◎社会構造が変化しても、地域で支え合うニーズはあり、地域で支え合う力が潜在しており、工夫次第で世代間交流を促進することができるのではないかと。
事業の経営計画 短期 (数ヶ月)	☆自治会長会議等で自治会へ実施計画の説明をする。 ☆学童管理者へ実施計画の説明をする。 ☆茶飲み場を設ける。 ☆賛同者を増やす。 ☆それぞれの高齢者ができることを調査する。
事業の経営計画 中期 (1年～2年)	☆みんなが集まる場ができる。 ☆いろんな場面に対応できる経験のある人・その周りに協力者をつくる。 ☆協力してくれる高齢者の名簿を作成する。 ☆自分の気持ちの伝え方、相手の話の聴き方を学ぶ講座を開催する。 ☆各自の公共の場を使えるように交渉する。
事業の経営計画 長期 (3年～5年)	☆住民同士の信頼関係ができ、自治会活動にも多くの人が参加する。 ☆学校帰りの子供が帰ってくる場ができる。 ☆学童の遊び時間に高齢者とふれあう時間をつくる。 ☆多世代がこぞって参加できるサロンを立ち上げる。
事業構想による付加価値	○お互いが話しやすくなり、信頼関係が生まれる。 ○違う世代と交流することでコミュニケーション能力が高まる。 ○情報の共有ができる。 ○多世代が集まって楽しく過ごすことで、お互いの関わりと結びつきが生まれる。 ○子育てに困難を抱える人等困ったときに、お互いが声を掛け合いやすくなる。 ○高齢者の生きがいづくりにつながる。

事業名：『なんでんかんでん我がたっで！育てようコミュニティ広場』

～地域コミュニティの今後のあり方についてみんなで語り合える地域を目指して～

やまとなでしこグループ 家村純子 犬井美香 内野多津代 辛島淳子 福寿久仁子 宮脇由紀子

私たちのグループは、住んでいる地域も違い、世代も違う6人だったが、それぞれが真剣に地域の現状を「このままで大丈夫なのか？」と思っていた。様々な立場で地域の活動に関わっているからこそ見える問題、関わっていても見えていない問題を出し合う中で、地域に住む一人ひとりを支えていくためには、これまでの行事消化型の活動の傾向にある地域コミュニティの在り方ではその機能を果たせないことに気づいた。そこで私たちは、テーマを「地域コミュニティの今後のあり方について」とした。

【現状として把握されたこと】

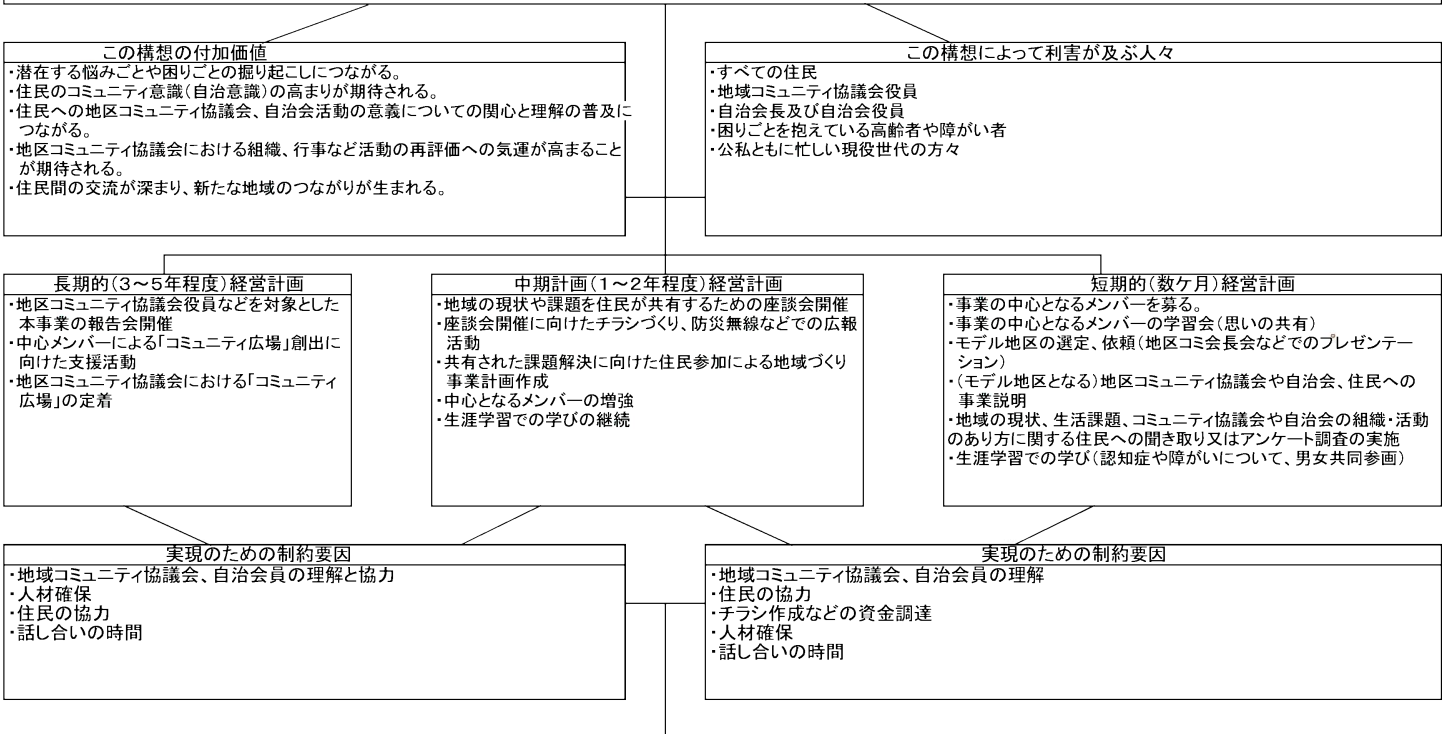
- ①地域の高齢化や現役世代の多忙化、更に固定的な性別役割分担意識や昔からの慣習があるため、地区コミュニティ協議会や自治会の運営が難しくなっている。
- ②地域の少子高齢化や学校の統廃合もあり、保育園、幼稚園、学校と地域との連携が難しくなり、世代間交流の場が少なくなっている。
- ③昔からの慣習や固定的な考えが、地域と若い世代との関わりを難しくしている。
- ④高齢者サロンや元気度アップ事業など閉じこもり防止や見守りに繋がる事業も増えてきているが、困りごとを抱えた高齢者や障がい者など一人ひとりに必要なサービスが行き届いていない。
- ⑤私たちの地域には、ひとり暮らしの高齢者や様々な生活上の困難を抱えている人々がいるが、地区コミュニティ協議会や自治会での支え合いができていない。

これらの過程において、私たちの住む地域には見ようとしなければ見えない課題や問題が山積していて、生きづらさを抱えている人々も多くいることに気づいた。そして、それらを解消していくためには、地域コミュニティが果たす役割や私たち一人ひとりの役割の重要性についての認識を深めることができた。

【課題として抽出されたこと】

- ①地域コミュニティづくりの基盤となる住民の自治意識の醸成を図る場の創出
- ②地域コミュニティの組織や行事の再評価
- ③多様な人々が地域コミュニティづくりに参画できる環境づくり

以上①～③の課題解決に向けた『なんでんかんでん我がたっで！育てようコミュニティ広場』事業は、地域コミュニティにおいてこれまでの組織のあり方や目的を明確にする行事のあり方についての再評価を行い、一部の役員に任せるのではなく、性別に関わらず、子どもから高齢者、障がい者などできるだけ多くの住民と対話を重ねる中で、悩みごとや困りごと、地域の課題を見据えることができ、「人ごと」ではなく「我がごと」と一人ひとりが認識できる場の定着を目指し、このような場を創出するための具体的な方策を体现する場づくりを行うものです。



獲得すべき経営資源

人的資源	住民、地域コミュニティ協議会、自治会、男女共同参画に基づく人権の視点を有する人、福祉の専門知識をもつ人
物的資源	地域コミュニティセンター、自治会館、座談会場、パソコン
財務的資源	チラシ作成代、人件費
情報的資源	チラシ、コミセン便り、防災無線

そのために必要なネットワーク化

自らの組織・グループの補強	事業への賛同者や協力者の掘り起こし、意識の醸成
他の組織やグループとの関係	地域コミュニティ協議会、自治会、薩摩川内市女性チャレンジ委員会
特定の個人（特に専門勢力を有する人）	男女共同参画地域推進員、認知症キャラバンメイト、保健師、精神保健福祉士、ケアマネジャー
対行政	薩摩川内市ひとみらい政策課、地域政策課、高齢介護福祉課、子育て支援課、保護課他、社会福祉協議会

地域コミュニティの今後のあり方について

【問題意識1】

地域の高齢化や子育て世代の多忙化、更に固定的な性別役割分担意識や昔からの慣習があるため、地域コミュニティ協議会や自治会の運営が難しくなっている。

- ・私の地域では、高齢化が進む中地区役員を引き受けて下さる方が少なく、毎回苦慮している。
- ・私の地域では、人材が多いのに40～60代の行事への参加が少ない。
- ・各自治会を盛り上げるためにのおまつ祭を始めた。今年4年目を迎え、コミュニケーションを図るいい機会になっている。
- ・私の地域では、60～70代の方々がなかなか役員を引き受けてくれず、40～50代の仕事をもつ世代が役員を担い、忙しくしている。
- ・私の地域の自治会長は、出会や役割が多く仕事の傍らでは大変だと感じている人もいます。
- ・会長など長年やっている色々批判的なことを耳にするが、私の近所の人は「自分が出来ないで、役員を引き受けて下さる方には感謝している。行事などに参加することで協力していきたい。」と言っている人もいます。
- ・私の地域の中には、コミュニティ協議会だよりに関心がない人もいます。
- ・私の地域では、行事に参加する人も少なくなっている。
- ・私の地域では、行事に参加する女性たちは協力的で団結力もある。
- ・私の地域のコミュニティ活動は、役員になった人や行事に携わる人しか知らないことが多い。
- ・私の地域では、地域行事に参加すると役員を押し付けられると言って、顔を出不ない人もいます。
- ・私の自治会では、若い人の地域活動参加が少ない。
- ・私の地域の中には、コミュニティだよりなどに募集している行事やイベントなど時間が合わなくて参加できない人もいます。
- ・私の地域では、高齢者と子供向けの行事が多く、時間帯が限られているため参加できない人もいます。
- ・私の地域のコミュニティ役員は、男性が多く、女性は補助的な役割が多い。
- ・私の地域では、年老いてきて休もきついで、そろそろ世代交代して退きたいという話が出ることもある。
- ・私の地域では、地区コミュニティの役員が高齢化している。

【問題意識2】

地域の少子高齢化や学校の統廃合もあり、保育園、幼稚園、学校と地域との連携が難しくなり、世代間交流の場が少なくなっている。

- ・私の地域の小学校では、青色防犯パトロール隊の方々へ不審者情報うまく伝達できていない時もあった。
- ・私の地域にある保育園は、以前は地域行事に参加していたが、最近では声を掛けてもなかなか参加してもらえなくなった。
- ・私の地域では、少子高齢化が進んで来て、郷土芸能の伝承が難しくなっている。
- ・私の地域の青色防犯パトロール隊の方が、登校途中ケガをした子供を学校へ送り届けたが、その後大丈夫だったのかと心配されていた。
- ・私の地域では、30～40代の子育て世代の方々は、子供の部活動や学校行事に追われ、地域活動に参加できない人が多い。

【問題意識3】

昔からの慣習や固定的な考えが、地域と若い世代との関わりを難しくしている。

- ・私の地区では、代々受け継いだ土地・山への思いが強い方も多く、若い人たちが家を建てたいと思っても土地の購入が難しく、仕方なく地区外に住む人もいます。
- ・私の地域の子育てサロンの参加者が「下の子供を見てもらえたので、上の子供とゆっくり過ごせた。」と喜んでいました。
- ・以前、私の地域の子育てサロンの中で「あなたは自治会員ですか？」という問いかけがあり、自治会に入っていない家族は、それ以降参加がなかった。

【問題意識5】

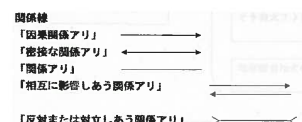
私たちの地域には、ひとり暮らしの高齢者や様々な生活上の困難を抱えている人々がいるが、地域コミュニティや自治会での支え合いができていない。

- ・川内駅前の地域は、交通の便も良く住みやすい場所ではあるが、実際住んでいるのは年配の方が多く、ゴールド集落になっている。
- ・私の地区は、高齢化が進み、道路作業や閉校跡地の除草作業などが年々難しくなっている。
- ・私の地域には、独居老人の見守りは一部の役員(自治会役員・民生委員・健やか支援アドバイザーなど)だけに任せず、地域みんなでの見守りが必要と思っている人もいます。
- ・私の地域の高齢者の中には、朝のゴミ出しが7時～8時までなので、時間までに出せない人もいます。
- ・私の地区では、認知症を患う方が少しずつ増えてきて、民生委員や健やか支援アドバイザーなどの役員だけでは見守りが難しくなっている。
- ・私の地域では、役員の任期が決まっているため、各個人が仕事に慣れた頃には交代となる。
- ・私の近所の高齢者の方々は、今後車を運転出来なくなった時の交通手段をどうしたらいいのかと悩んでいる。
- ・私の地域では、耕作放棄地も増えてはいるが、地元の農業法人の方々が米作りを担って下さり、大変助かっている。
- ・私の地域では、今後の行事の在り方などについてのアンケートをとっても回収率は40%前後である。

【問題意識4】

高齢者サロンや元気度アップ事業など閉じこもり防止や見守りに繋がる事業も増えてきているが、困りごとを抱えた高齢者や障がい者など一人ひとりに必要なサービスが行き届いていない。

- ・私の地域には、元気度アップ事業でスタンプがいっぱいになったら行事や事業に参加しなくていいと思っている高齢者もいます。
- ・私の地域の目の不自由な高齢者の方は、介護認定が下りヘルパーを頼めるようになったが、お風呂掃除など手の届かない所もまだたくさんあり困っている。
- ・私の近所の方は、高齢者サロンで様々な活動をするのも楽しいけれど、お茶を飲みながらお喋りするだけでも十分楽しいと言っている。
- ・自治会によっては、元気度アップ事業を知らない高齢者もいます。



【背景】

瓶島列島は、薩摩半島から約26km西方海上に北東から南西に連なる列島で、フラットで明るい印象の上瓶島・中瓶島と、太古の地層が断崖になっているダークな印象の下瓶島からなる列島である。

平成16年10月には本土と海を越えて市町村合併をし、薩摩川内市になった。しかし、かつては4つの村が存在し、それぞれ独自の自然環境にあって、生活や伝統文化も、異なった風土を持つ集落が形成されてきた。現在、列島を繋ぐ蘭牟田瀬戸架橋の工事が始動し、架橋の完成によって列島縦断道路が出現するという、かつてない時代が到来する。市町村合併は行政的な合併であるが、この架橋の実現は、具体的な物流や人的交流として、市町村合併よりも更に現実的な生活環境の変化が予想され、新たな地域の課題や目標も浮上してくるものと思われる。

合併による変化と架橋による変化の、二段構えの変化に、島の住民が「元気でいきいき暮らす島づくり」という地域コンセプトをどのように位置づけるのかは、極めて重要な課題である。

薩摩川内市は、合併の翌年組織された地区コミュニティ協議会制度と結びつけて、架橋に向けての行政的な協働事業に着手した。

平成26年10月から旧4村の住民代表との会議を開始し、行政施策の効率化に向けて始動。翌平成27年3月に観光を主軸とした地域振興策として、瓶島ツーリズムビジョンを発表。又、4月からは本庁に「瓶はひとつ推進室」を設置した。

行政の働きかけで動き出した「瓶はひとつ」推進事業は、観光振興の動きとともに、平成21年に観光元年とした市政策にそって、着々と進んできた印象がある。しかし、協働事業の中心にいる組織の住民代表は概ね旧世代で、旧来の受身の対応から抜け切れず、動きが一般の島民生活になかなか届かず、各町の意識にも温度差がある。今だ、「瓶は四つだ」と揶揄される場面もある。

精力的に動いているかの「瓶はひとつ」推進事業だが、実質的な協働の成果はまだ図られていない。

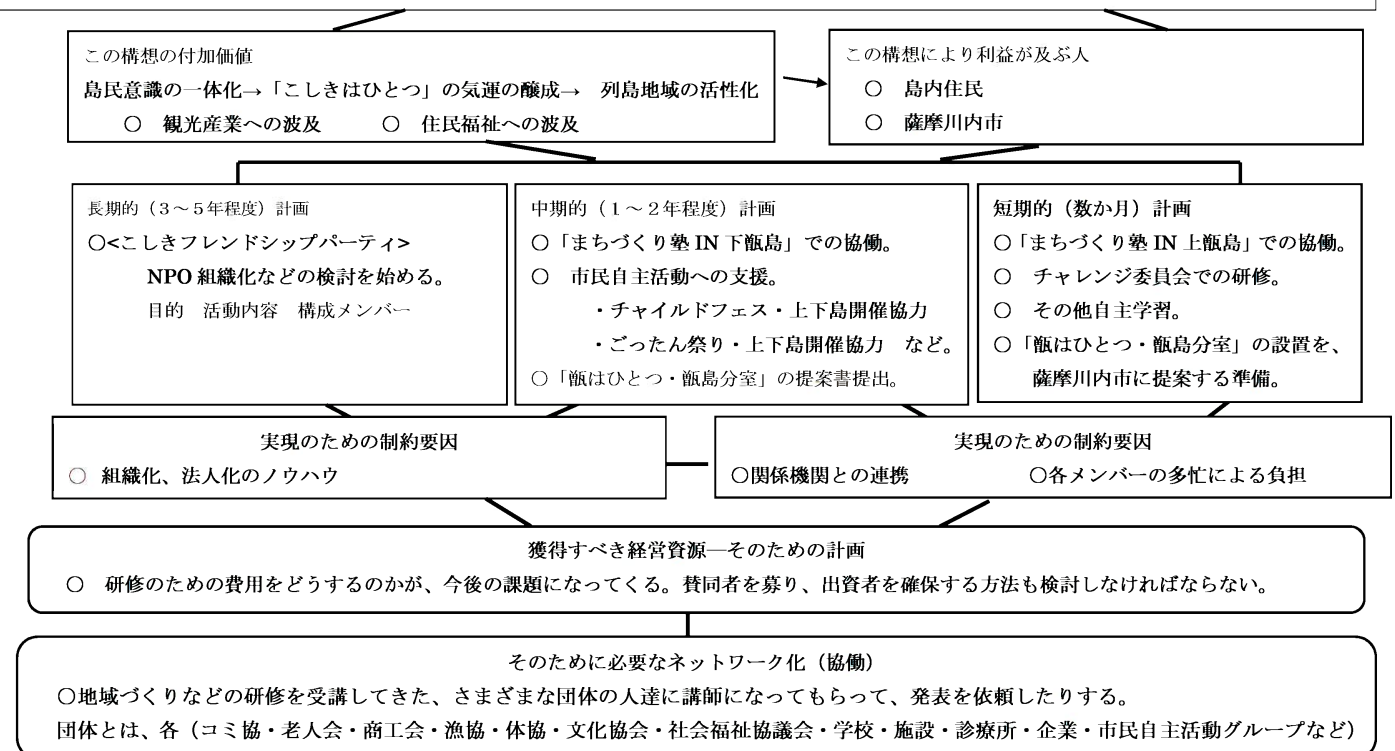
【取り組み】 島民が、〈瓶はひとつ〉を認識した時、島の振興を進める〈総合的な実現力＝「元気でいきいき暮らす島づくり」〉が生まれる！

私たちは島の住民の現状をつかむ為、メンバーによる住民アンケートを実施し、アンケート内容の分類をした。その作業を通して、時代背景も加わった多様な課題の実態がはっきりになった。時代背景というのは、①後継者のいない商店が閉鎖し、②高齢化による生活上の不安と困難を抱え、③少子化で過疎化に拍車がかかり施設を含め空家が多く散在し、④田畑の荒廃が進んでいるという、日本国中いたるところにある地方及び地域の課題である。一方で、各島に住むメンバーが交流を深めたことによる列島各地域の生活実情の差異と多様性が明らかになったのは、大きな収穫だった。それによって、行政と住民との協働には、住民自身の主体性を育んでいく視点を持たなければ、実際の場で、成果をあげることはできないことに思い至った。私たちには島の産業振興や福祉など、その動向への強い関心がある。それぞれ実際に活動にも参加しているが、同時に島民としては、島暮らしの豊かさは、経済だけで計れるものではないという思いもある。

私たちは、市政の観光振興や「瓶はひとつ」推進事業とは別に、住民全体の実感として、これを捉える必要があると判断した。

「瓶はひとつ」を、島民の現実として浸透させ、一体化に繋げて、多方面へ波及させることが重要ではないか。列島の、食も労働もシェアする従来の「了解の精神」。つまり、許容し分かち合うという気風の豊かさは、島民自身が主体的に、「瓶はひとつ」の活動を進めた時、有意義のある局面を生み出すのではないかと、思われた。分かち合いの内実を古い相互扶助的な意識から、一歩進めて、民主的な人権尊重の意識へと変えていくという取り組みでもある。私たちは、この列島に「こしきフレンドシップパーティ」＝自学研修塾を設立し、列島のあらゆる問題を友愛的に自由に発言し合い、又、島暮らしの豊かさやメリットを語り合う場を設ける。男女共同参画社会や人権擁護の考え方と実践を主軸にした、当面、年数回の研修を兼ねた個人的なパーティを活動の基本とし、行政にも積極的に提言し、各地区コミュニティ協議会のメンバーとしても、行政との協働を現実として深めるよう活動をする。共有の地盤で初めて可能になる相互交流の場を自ら細かく企画し、又、相互に支援、応援し、島外宣伝などの情報発信を島内に向けても行ない、自分が住む列島について島民自身が熟知しうるような機会を、全島的に作り出す。それによって列島に暮らす誇りや喜びが醸成され、足腰の強い「自己理解度の高い島民性」を築き、今後の大きな社会変化や災害などの変動にも対応しうる力量を得るものにしたいと考えた。落穂拾いのような活動ではある。又、達した処に従う計画は一見有効性がないように見えるが、自在である分、主体的な実行性は高く、発展性を秘め、絵に描いた餅ではない。

市行政には、瓶列島の実情を住民と真に共有するため、瓶列島の中に「瓶はひとつ推進室・瓶島分室」の設置を提案することにした。



【テーマ】

元気でいきいき暮らす島づくり

【課題認識2】
後継者のいない商店が閉鎖し、雇用
に苦慮している職場も多く、また雇用
を求めている人もいる。

- ① 甌島に住んでいる多くの人の所得が低い
- ② 働き手の条件にあった職業が見つからない
- ③ 働き手がなかなかみつからない企業がある
- ④ 後継者のいない商店が閉店している
- ⑤ 甌島には、若者が少ない
- ⑥ 地元の魚が本土より高価である

【課題認識3】
高齢化に伴い、生活上の不安や困難
をかかえている高齢者が増えている。

- ① 入浴介護やショートステイなどの在宅サービスを十分に受けていない高齢者がいる
- ② 自然が一杯の甌島は環境はいいが危険な場所もある
- ③ 独居老人の率が増えている。
- ④ 高齢化に伴った取り組みは様々な組織でなされているが、参加者が決まってい
限られた人のみで行われていると感じる人がいる。
- ⑤ 私の地域には引きこもっている高齢者がいる
- ⑥ ただの長生きではなく、元気で長生きすることが大事だと思う人がいる
- ⑦ 島外への通院が負担となっている人がいる
- ⑧ 国民年金だけで生活していけるのか不安な高齢者が多い

【課題認識1】
生活上の困難や問題の背景が多様化
しており、地域の多様化に対応する組
織活動が、求められている。

- ① 手押し車などを使用する高齢者にとって、道路に段差が多い
- ② 近くのゴミ捨て場まで歩いていくには距離がある
- ③ 1台の救急車と6人の職員で下甌の全集落に対応できるのか、不安であると思う人がいる
- ④ 避難所までの交通手段がない
- ⑤ 歩道がなく道幅の狭い道路に路上駐車しているので、歩行者が危険である
- ⑥ 台風時、家の戸締りを手伝ってくれる人手が必要な、高齢者や身体の不自由な人がいる
- ⑦ 鹿島地区は交通手段(自家用車)がないと、買い物や病院へ行くにも不便である
- ⑧ 川の整備が十分でないところでは、増水する不安をかかえている
- ⑨ 六次産業などの動きもみられる
- ⑩ 仕事が終わる夕方まで子供だけで留守番をさせるのが心配な家庭がある
- ⑪ 仕事のために親が不在で、子供の下校後の行動が分からず不安な家庭がある

【課題認識4】
甌島では豊かな自然を活かした生活
が営まれてきたが、それを活かしてい
ない部分も多い。

- ① 観光名所に、トイレがない場所が多い
- ② 県道や市道の除草が追いついていない
- ③ 観光ポイントとしてあまり知られていないが、有力な場所がある
- ④ 観光ルートの展望台に、双眼鏡が無い
- ⑤ 素潜りや貝採りなど観光客のニーズがある
- ⑥ 釣り人が釣った魚を食べたり、調理してもらえるところを知らない
- ⑦ 上甌島にはパッションフルーツやオリーブなどの観光資源があり、
下甌島にはかのこゆり・椿・きのすなどがある
- ⑧ 朝市がないと言う声がある
- ⑨ 活かされていない生活技術がある
- ⑩ 自然の中に地域資源が豊富である

【課題認識5】
使われていない施設や空き家が多く、
田畑が耕作されていない箇所も広が
っていて、景観が損なわれ、地域の安全
にも影響している。

- ① 使用されていない小学校・幼稚園がある
- ② 活用できる空き家がある
- ③ 空き家の中には管理する人がいない家がある
- ④ 田畑の荒廃がすすんでいる

《課題抽出のための現状把握の図解》

関係線

「因果関係アリ」

「密接な関係アリ」

「関係アリ」

「相互に影響しあう関係アリ」

「反対または対立しあう関係アリ」

私たちのグループは、まず薩摩川内市の現状を考えながら、各委員の住んでいる場所や環境が違う中で感じる問題を出し合う事からスタートした。住んでいる地域での行政サービスや住みやすさ、住みにくさに差があるのではないかと考え、当初テーマを「薩摩川内市での地域格差」に決定した。地域格差について現状把握を進めていくうちに、はじめは豊かで暮らしやすいと想像していた市街地・住宅地にも課題があり、また、人口流出、高齢化が進む過疎地域には、課題もあるが、市街地・住宅地とは異なる豊かさがあることがわかった。課題は「地域格差」そのものではなく、地域生活者自らが、地域の現状を把握し、その情報や将来への思いを共有すること。困りごとへの具体的な対策案とその実行を実現する力を醸成していくことではないかと気づいた。そうした時、地区を代表する地区コミュニティ協議会の多くに、多様化・複雑化する地域課題が山積する常態の中で、問題意識を持つ地域生活者からの情報や意見を活かす場が準備されていないという新たな課題が見えた。

1 現状把握

- ①人口減少の地域では、今後さらに高齢化が進むと、現状での生活を続けるには、今なんとかしないといけない。
- ②地方への定住促進の制度があっても、現実住んでからの後のサービスが整っていない為、定住が少ない。
- ③人口の少ない過疎地に暮らす人たちは、自分たちで行政サービスが行き届いていない部分を補っている為、コミュニティ間の結びつきが強い。
- ④企業が出来る地域には人が集まり、住宅が出来る。また、公園・病院等が出来て便利になっているが、世代間の交流や人とのつながりが希薄となっている。
- ⑤私たちの地域では、長年住み慣れた場所で暮らしたいという思いの人がいるが、小学校の閉校、商店の閉店、交通の不便さ等から市街地方面へ転居の選択をする人が増えている。

2 重点課題の抽出

- 今ある課題や現状を真剣に語り合い、課題解決に自ら動き出す力を育て、自信と勇気とネットワークで、誰もが住み慣れた地域でお互い支えあい安心して健やかに暮らせることの地域の実現に向けて。
- A. 地域生活者自らが、地域の現状を把握し、その情報や将来への思いを共有すること。困りごとへの具体的な対策案とその実行を実現する力を醸成していくこと
 - B. 地区を代表する地区コミュニティ協議会の多くが、多様化・複雑化する地域課題が山積する常態の中で、問題意識を持つ地域生活者達からの情報や意見を活かす場を持たない
 - C. 地区コミ役員だけでなく、だれでもがのびのびと意見を出し合える場、課題と同時に、地域にある豊かさや、地域に対する愛着にも着目することで、話し合い、課題解決するマインドや手法を学び、自ら解決することを継続できるよう、話し合いの場づくり

この事業の付加価値

- 話し合いの場づくりについて勉強会でルールについても学ぶ事で、お互いが話しやすくなり、信頼関係を保つ場を構築することが出来る。
- これまで地区コミ行事等に参加していなかった人も気軽に参加出来る場作り
 - 地域の役員だけが話し合いの場に参加している現状
 - 地域生活者が地域の現状を把握することが出来る
 - 問題意識を持つ地域生活者が情報や将来への思いを共有出来る

この事業により利益が及ぶ人

- 全ての住民
- 地域の中に埋もれている地域のつながり作りに意欲のある人
 - 転入したばかりでこれからつながりを作りたい人
 - 地域に住み続けたいと思っている人
 - 地区コミ役員
 - 自治会長

長期的（3～5年程度）事業計画

- 自慢大会開催へ向けての話し合いの場の継続をする
- 良い所を確認する
- 課題について、自分達で解決していく事が出来る
- 地区同士の交流の場の維持
- 外からのアイデアを自分達の地域作りに生かす

中期的（1～2年程度）事業計画

- 自慢大会へ向けての話し合い
- 具体的な内容の発表への話し合い
- ・プロセス
- ・良い点、課題
- 地区の発表会へ別校区が参加することで交流が生まれる

短期的（数か月）事業計画

- 地区コミ、自治会へ対し
- ・事業説明 ・場所設定
- ・勉強会(話し合いの仕方など…)
- ・住民への呼び掛け
- ・タイムスケジュール“自慢大会”までの目的をわかってもらって、参加してもらう為の説明・案内

実現のための制約要因

- 地区コミ協議会との調整
- 市関係部署との調整
- イベント会場の確保
- 話し合い時の託児への配慮
- 資金調達(場所代、空調代)

実現のための制約要因

- 住民の協力(関係時間帯)、働く人、子育て中の人が参加しやすいように
- 地区コミの考え方
- 自治会加入以外の参加者
- 甌島の参加

獲得すべき経営資源—そのための計画

- 人的資源…地域住民、女性チャレンジ委員会(男女共同参画を勉強した人)、ひとみらい課、各コミュニティの役員、託児が出来る人
- 物的資源…集まる場所(パソコン、プロジェクター、音響)、資料印刷、託児が出来る場所
- 財務的資源…茶菓子代、場所代、空調代、自慢大会各賞の賞品(地区コミュニティや自治会の予算)

そのために必要なネットワーク化（協働）

- 自らの組織、グループの補強…人的資源として中心となって活動出来る
- 他の組織やグループとの関係…地区コミ、自治会長、社協、健やか支援アドバイザーの掘りおこし
- 特定の個人(特に専門的知具を有する人)…女性チャレンジ委員会
- 対行政
- 市ひとみらい課
- 地域政策課(地区コミ主管課)

薩摩川内市での地域格差

【問題意識3】

人口の少ない過疎地に暮らす人たちは、自分たちで行政サービスが行き届いていない部分を補っている為、コミュニティ間の結びつきが強い。

- ・私の地域では、1社のバス会社しかなく駅までしか通じていない。小・中学校・高校の通学は乗り換えが必要。高齢者も通院買い物が不便である。
- ・企業が出来る地域には人が集まり、住宅が出来、また公園、病院等が出来て便利になっているが世代間の交流や人とのつながりが希薄となっている。
- ・人数が少ないと地域活動の負担が重い。(自治会・PTA・学校行事等...)
- ・私の地域では、人口が多いと小学校の人たち、中学校、青年部などそれぞれで行事が成り立っていく分交流が少ない。
- ・川内市街地の住みたい地域は、地域組織の活動や役員・係への強制がない。子育ての若い家族や仕事で忙しい家族への負担がすくない。
- ・私たちの地域では、人が多いので大きな行事が出来るし、係りも分担できる。
- ・デマンド交通があるが、お年寄り自身で手配出来ない人もいる。手配をサポートする人が必要。
- ・ゴールド地域で市街地や通院など交通手段が不便な地域がある。
- ・くるくるバス、ちよつと良い時間のバスがない。お店や、病院の前で止まってくれるわけではない。
- ・私たちの地域では、自治会の加入率が良い。
- ・家族ぐるみの付き合いがある。
- ・私の地域では、道路沿いの草刈りがいきわたらずはえたままになっている。
- ・私の地域の学校は、全員参加が必然である。
- ・私の地域では、自治活動がハードである。
- ・私の地域では、お店が少なく気軽に買い物が出来ない。

【問題意識1】

人口減少の地域では、今後さらに高齢化が進むと、現状での生活を続けるには、今なんとかしないとイケない。

- ・私の地域の支所の人数が減ってきている。
- ・行政サービスが今まで通り受けられなくなるのではないかと心配である。
- ・私の地域では、通学路に街頭がなく歩道がない所がある。
- ・私の地域では、通学路で草が茂ったまま整備されていない所もある。
- ・私の地域では、草が道の中程まで生えていて、電動車椅子が草で滑って転倒のおそれがある場所がある。
- ・道路わきの木で、車を出すときに見えづらく落ち葉が多過ぎて、鳥の糞も多い。
- ・防災、災害時に必要な情報を得られるFMさつませんだいが聞こえない地域がある。
- ・私の地域では、自治会長が各行事に一所懸命であるが、女性部が高齢者サロンや子どもと高齢者との交流の場など提案しても『出来ないねえ』と即答する。自治会長

【問題意識2】

地方への定住促進の制度があっても、現実住んでからの後のサービスが整っていない為、定住が少ない(難しい)。

- ・私の地域では、子どもが中学校・高校進学の際に川内市街地に新築を立てて移住している。
- ・私の地域では、長年住み慣れた場所で暮らしたいという思いの人がいるが、小学校の閉校、商店の閉店、交通の不便さ等から市街地方面へ転居の選択をする人が増えている。
- ・私の地域では、若い人の転入が少ない。
- ・鶴島の若い家族が転勤を機に川内市街地の住みやすい地域をリサーチして移住している。
- ・薩摩川内市の定住促進の補助金の額が大きい私の地域で新築の家が建たない。
- ・人が多いと同級生、同窓生が多い(安心)。
- ・人とかかわるチャンスに恵まれる。
- ・将来、自分の住んでいる地域に市職員で働いている人がいなくなる。
- ・川内市街地では、分譲マンション、新築マンションの建設が増えている。

【問題意識4】

企業が出来る地域には人が集まり、住宅が出来る。また、公園・病院等が出来て便利になっているが、世代間の交流や人とのつながりが希薄となっている。

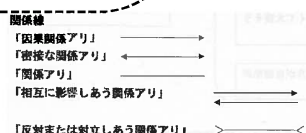
- ・大きな企業があるとその地域の人口が増える。
- ・私の地域には、病院、お店が揃っていて選べるし、住みやすいと言う人が多い。
- ・私の地域では、飲食店が少ないが市街地には飲食店が多い。
- ・川内市街地は川内駅があり、鹿児島市内、福岡方面に行くのが便利で、通学、通勤にも便利である。
- ・空港までの高速道路があると物流、人の流れが出来る。
- ・私たちの地域では、転勤族の方も多く市街地の隣近所の人を知らないし、自治会に入っている人が少ない。
- ・市街地の保育園、幼稚園は希望者も多く、幼児教育が確立されている。公園も多く子育てしやすい。
- ・子どもを勤務時間に合わせて送迎するのに便利のため、勤務地に近い保育園を選んでいる結果、待機児童が多い。地域に偏りがある。
- ・私の地域には、塾が少なく選べない。車で送り迎え出来る

【問題意識5】

私たちの地域では、長年住み慣れた場所で暮らしたいという思いの人がいるが、小学校の閉校、商店の閉店、交通の不便さ等から市街地方面へ転居の選択をする人が増えている。

- ・私の地域では、アリーナに近いのでスポーツの取り組みやすく、散歩もできる。
- ・市街地自治会長さんは自ら地域ケアシステムを学びボランティアとのマッチングにコミュ事務局へ働きかけている。認知症、老後の問題は明日は我が身と思われる。
- ・子ども食堂を実施している地域もあるがニーズがあっても実現出来ない地域もある。
- ・私の地域の、ゴールド集落では自主的にどんどん協力して地域活性化をしている。菜の花を植えて油を朝市などで売っているなど老若男女力を合わせている。
- ・島地区では、店が町内に二軒、ヘルパー事業所もないが高齢で虚弱なお年寄りが1人で生活することが出来ている。
- ・私の地域では、市街地よりも小中学校のクラス人数が少ないが、先生の目が届きやすい。親も知っている。

《課題抽出のための現状把握の図解》



事業名：「地域で支え合うための世代間交流促進事業」

【ハーモニー】千賀エチ子・有村明美・宇宿弘恵・大村恵美子・鳥越裕美子・武藤智子

○地域を支えるために、コミュニケーション不足を解消し、子供からお年寄りまで地域に暮らす人々みんなが世代を超えて集まって交流ができる場として、これまであったいきいきサロンや子育てサロンを一緒にしたようなサロンを立ち上げることや、学童保育のときに、地域の高齢者に来てもらって昔の遊びを教えてもらって交流をはかることなどによって、世代間交流を促進する事業を立案しました。

・テーマ「地域で支え合うための世代間交流のしくみづくり」について現状として把握されたこと

- 1, 昔は皆が支え合い集まることが多かったが、今は便利になり、集まって支え合うことがなくなっている。
- 2, 両親の共働き、核家族化、少子化、子供の塾通いなど会話する機会が少なく、うまくコミュニケーションがとれない人が増えている。
- 3, 地区コミュニティ協議会の組織が硬直化しており、一部の人に負担が集中しており、運営が難しくなっている。
- 4, 行政支援はあるが、実態に即しておらず、市民の意見を吸い上げるしくみがなく、改善がされない。
- 5, 地区コミュニティ協議会の行事で工夫した結果、世代間交流ができています。
- 6, 地区コミュニティ協議会の日常で世代間交流ができています。

・課題として抽出されたこと

- ① 社会構造の変化により世代間交流が少なくなったことで、住民間のコミュニケーションが不足し、住民同士の支え合いの中核になる地区コミュニティ協議会などの運営が難しくなっているのではないかな。
- ② 社会構造が変化しても、地域で支え合うニーズはあり、地域で支え合う力が潜在しており、工夫次第で世代間交流を促進することができるのではないかな。

住民間のコミュニケーションを育む世代間交流を通した地域支え合いのしくみづくり

この構想の付加価値

- ・お互いが話しやすくなり、信頼関係が生まれる。
- ・違う世代と交流することでコミュニケーション能力が高まる。
- ・情報の共有ができる。
- ・多世代が集まって楽しく過ごすことで、お互いの関わりと結びつきが生まれる。
- ・子育てに困難を抱える人等困ったときに、お互いが声を掛け合いやすくなる。
- ・高齢者の生きがいがづくりにつながる。

この構想によって利害が及ぶ人

- ・普段、引きこもりがちの人
- ・民生委員・健やか支援アドバイザー・自治会長等の役職にある人
- ・すべての住民
- ・自宅に高齢者がいない子供達
- ・核家族世帯

長期的(3～5年程度)経営計画

- ・住民同士の信頼関係ができ、自治会活動にも多くの人が参加する。
- ・学校帰りの子供が帰ってくる場ができる。
- ・学童の遊び時間に高齢者とふれあう時間をつくる。
- ・多世代がこぞって参加できるサロンを立ち上げる。

中期的(1～2年程度)経営計画

- ・みんなが集まる場ができる。
- ・いろんな場面に対応できる経験のある人・その周りに協力者をつくる。
- ・協力してくれる高齢者の名簿を作成する。
- ・自分の気持ちの伝え方、相手の話の聴き方を学ぶ講座を開催する。
- ・各自の公共の場を使えるように交渉する。

短期的(数ヶ月)経営計画

- ・自治会長会議等で自治会へ実施計画の説明をする。
- ・学童管理者へ実施計画の説明をする。
- ・茶飲み場を設ける。
- ・賛同者を増やす。
- ・それぞれの高齢者ができることを調査する。

実現のための制約要因

- ・自治会・学童管理者の理解
- ・高齢者の交通手段
- ・場所の確保・費用
- ・メンバーの確保

実現のための制約要因

- ・自治会・学童管理者の理解
- ・情報収集能力・個人情報取り扱い
- ・お茶菓子代・場所の確保

人的資源 地域住民・中心人物・サポートする人
 物的資源 集まる場所・飲食物
 財務的資源 茶菓子代・場所代
 情動的資源 回覧板・防災無線・FMさつまさんだー・公報・市報・社協だより

獲得すべき経営資源

そのために必要なネットワーク化

自らの組織・グループの補強
 他の組織やグループとの関係
 特定の個人（特に専門能力を有する人）
 対行政

賛同者の広がり
 地区コミュニティ協議会、自治会長会、地元の小中学校
 女性チャレンジ委員、自治会長、民生委員、健やか支援アドバイザー、学童支援員、保育士
 市役所ひとみらい政策課、子育て支援課、高齢・介護福祉課

【テーマ】

地域で支え合うための世代交流のしくみづくり

①昔は皆が支え合い集まることが多かったが、今は便利になり、集まって支え合うことがなくなっている。

- ・昔は子だくさんだったが、親だけでなく地域全体で子供を見ていたので、親は楽だったという声があった。
- ・昔は、お葬式の時などにみんなで炊き出しをして、煮しめの作り方などを教えてもらっていたが、最近は葬祭所がおおくなってそういうことがなくなった。
- ・地域の伝統行事の継承が難しくなっている。文化祭みたいな行事で世代にわたっての取り組みが必要。
- ・高齢化少子化が進み、結果として空き家が増加して放置されているというのが現状で、それらを活用できるしくみが無い。

②両親の共働き、核家族化、少子化、子供の塾通いなどで、会話を機会が少なく、うまくコミュニケーションがとれない人が増えている。

- ・現在の子供と昔の子供の違い、今の子供達をいかにしたら良いのか？良い方向にしてやる方法？
- ・お年寄りとのふれあいが多い子供はコミュニケーション能力が高いと多くの人が言っていた。
- ・電話の時間には費やすが、朝ご飯を作ったり、子供への関わる分が少ない。
- ・子育てができない親が今増えてきているように思うが、これをどうしたらよいのだろうか。
- ・必要なコミュニケーションができない子供がいる。
- ・幼稚園、小学校、中学校が一緒のためかコミュニケーションがあまりできていないために長続きができない。
- ・コミュニケーションが必要なので、小さい頃からコミュニケーションをつけられるようにしてあげたらよい。
- ・良いこと、悪いことの区別ができない子供がいる。子供にも良いこと悪いことの区別が自分で分かるようにしてあげる。小さいうちに。
- ・相手の痛みを分かってあげるのが大事であるから、よく考えて行動し、物事を言うようにする。

③地区コミュニティ協議会の組織が硬直化しており、一部のみに負担が集中しており、運営が難しくなっている。

- ・地域の仕組みが縦割りになっている。
- ・地域の行事が減っている。
- ・地区コミュニティ協議会での支援・行事やイベント等について、高齢者が参加しやすいものになっていない。
- ・行事が皆が楽しめるものになっていない。
- ・地域の行事で裏方ばかりして参加できない。
- ・学校行事、コミ行事に父親の参加が非常に少ないようです。
- ・夏休みにいきいきサロンに子供の参加を呼びかけた。もともと子供の数が少ないので、そんなに集まらなかった。
- ・私の自治会には小学生のいる世帯が1世帯しかなくて、体育委員は年配の人がしている。
- ・ボランティアの人達が少ない。ボランティア精神で動めてくれる人がいるといいのだが。
- ・役所のワークションがない。
- ・がん宣告をされ、育児も大変なときに婦人会の役を頼まれ、断るとその後ずっと無視されている人がいる。

④行政支援はあるが、実体に即しておらず、市民の意見を吸い上げるしくみがなく、改善がされない。

- ・母子家庭と父子家庭で行政援助の仕方が違う。
- ・原子力発電所の事故対策の地域での昼夜訓練がない。
- ・社会福祉協議会の社協福祉バスは年1回しか利用できず、足りない。市でも貸し切りバス等を検討して欲しいという声がある。
- ・介護予防元気度UP事業のポイント対象が少ないので、1ポイントの金額を増やして欲しい。特に、40才以上の方の支援者用カードが少ない。

⑥地区コミュニティ協議会の日常で世代間交流ができています。

- ・昔の遊びと今の遊び。高齢者と子供とで遊ぶ。高齢者と子供のふれあいができる。
- ・親子で楽しむ活動。コミュニティを利用しながら、親子料理教室をひらいてあげる。
- ・料理教室の実施、親子での参加
- ・火災報知器等の点検、各自治会にて声かけ交換をしてあげる。
- ・子供と高齢者とのふれあい活動の場を作りたいという高齢者の声がある。
- ・いきいきサロンで福祉バス利用のとき、幼児参加を社会福祉協議会で断られたが、松付の報告書に参加希望のことを記入したら、次回からはOKに変更してもらえた。
- ・子育て支援、地区コミュニティ協議会でも参加して楽しい子育てができている。夜も子供と一緒に。
- ・亀山地区コミュニティ協議会では、ペットボトルのフタの回収をしており、子供さんが持ってきてくれる。それを

⑤地区コミュニティ協議会の行事で工夫した結果、世代間交流ができています。

- ・地域の運動会を小学校の運動会と一緒にしている。お互いを知る機会になっている。
- ・敬老の日に小学生が老人各家庭を訪問している。
- ・世代交流とのことで、田植えから稲刈りまでを一緒に行なっている。小学生から高齢者まで一緒に行事を行なっているとのこと。
- ・ラジオ体操で毎朝老若男女40名ほどが集まっている。
- ・他の地域から休み中、先生方が参加して、版画会、ドローン飛ばし等の学習会を行ない、子供達も参加して楽しく過ごしていた。
- ・三世代交流の行事、グランドゴルフ、もちつき大会等で交流をはかっている。
- ・高齢者対象の地域スポーツ大会への参加、高齢者から中学生までこぞっての参加。
- ・七夕作りへの参加、高齢者、児童、共に参加し、昼食(カレー)を出してあげている。
- ・わくわく節真川内市土曜塾、夏休みの宿題を早くやっちゃおう学級という少々長つたらしい勉強会を実施している。
- ・地域おこし協力隊をつくり、子供とともに楽しい夏休みにしている。
- ・私の地区コミュニティ協議会では、親子クリスマス大会など親子で参加できる行事を計画している。
- ・私の地区コミュニティ協議会では、夏休みに2回、小学校でラジオ体操をしていて、そのときに地域の人々が作った野菜を配っている。
- ・私の地区コミュニティ協議会では、夏休みに中学生が高齢者宅に出向いて、掃除などをしてくれるボランティアをしている。
- ・地区コミュニティ協議会の行事が多く、参加者が市内の子供や地方の子供も参加してのわくわく楽しみ会。

関係線

「因果関係アリ」 →

「密接な関係アリ」 ↔

「関係アリ」 →

「相互に影響しあう関係アリ」 ↔

「反対または対立しあう関係アリ」 > <

薩摩川内市女性チャレンジ委員会活動経過（第7期）

平成29年度

第1回全体会	5月24日（水）	市役所会議室
第2回全体会	8月 9日（水）	市役所会議室
第3回全体会	9月13日（水）	市役所会議室
第4回全体会	10月11日（水）	川内文化ホール
第5回全体会	12月 6日（水）	川内文化ホール
第6回全体会	2月 6日（火）	川内文化ホール
第7回全体会	3月 7日（水）	川内文化ホール

平成30年度

第8回全体会	4月26日（木）	市役所会議室
第9回全体会	5月24日（木）	市役所会議室
第10回全体会	8月 2日（木）	市役所会議室
第11回全体会	10月 3日（水）	市役所会議室
第1回代表者会	10月23日（火）	川内文化ホール
第12回全体会	11月 7日（水）	川内文化ホール
第2回代表者会	12月 6日（木）	川内文化ホール
第13回全体会	1月16日（水）	市役所会議室
第14回全体会	2月13日（水）	川内文化ホール

※2年間に各グループ自主学習を数回開催しています。

第7期薩摩川内市女性チャレンジ委員会委員名簿（平成29年4月1日から平成31年3月31日）

【グループ別：五十音順】

グループ名	氏 名	地区	備考
やまとなでしこ	イ ^エ ム ^ラ 村 ジュン ^コ 子	可愛	
	イ ^ヌ 井 ミ ^カ 香	藤川	リーダー
	ウ ^チ ノ ^ノ 多 ^ズ 津 ^ヨ 代	斧淵	
	カ ^ラ シ ^マ 島 ジュン ^コ 子	隈之城	
	フ ^ク ジ ^ウ 福 ^ク 寿 ^ク 久 ^ニ 仁 ^コ 子	高来	
	ミ ^ヤ ワ ^キ 宮 ^ユ 脇 ^キ 由 ^コ 紀 ^コ 子	川内	

グループ名	氏 名	地区	備考
島美人	ウ ^エ ム ^ラ 植 ^タ 村 ^キ 多 ^喜 喜 ^コ 子	上甕	
	エ ^グ チ ^ロ 江 ^タ 口 ^マ 玉 ^ミ 美	手打	
	サイ ^{トウ} 齋 ^キ 藤 ^ミ 公 ^コ 子	里	リーダー
	シ ^カ 塩 ^マ 釜 ^ツ 悦 ^コ 子	鹿島	
	シ ^ラ カ ^タ 白 ^マ 潟 ^リ 麻 ^コ 利 ^コ 子	青瀬	
	ミ ^ナ 南 ^メ メ ^グ 恵 ^ミ	長浜	

グループ名	氏 名	地区	備考
虹	ア ^オ ヤマ ^ミ 青 ^ユ 山 ^キ 美 ^紀 由 ^紀	入来	リーダー
	キ ^シ タ ^ナ 木 ^ツ 下 ^コ 奈 ^津 子	市比野	
	コ ^ツ ジ ^ミ 小 ^ツ 辻 ^ヨ 美 ^津 代	樋脇	
	ゼ ^ニ 銭 ^{ハラ} 原 ^ム 睦 ^ツ 美 ^ミ	隈之城	副会長
	ヒ ^ダ 高 ^カ 高 ^メ 恵 ^グ	峰山	
	マ ^ツ ザ ^ワ 松 ^ユ 澤 ^ミ 優 ^美	育英	
	マ ^ル 目 ^コ 丸 ^ウ 公 ^コ 子	永利	

グループ名	氏 名	地区	備考
ハーモニー	ア ^リ ム ^ラ 有 ^テ 村 ^ル 明 ^ミ 美	城上	
	ウ ^ス 宿 ^ヒ 弘 ^ロ 恵 ^ミ	平佐西	
	オ ^オ ム ^ラ 大 ^エ 村 ^ミ 恵 ^コ 美 ^子	水引	
	セ ^ン ガ ^ガ 千 ^エ 賀 ^チ 子	下手	リーダー
	トリ ^ゴ 越 ^ユ 裕 ^ミ 美 ^コ 子	市比野	会長
	ム ^ト 藤 ^ト 智 ^モ 子	亀山	